

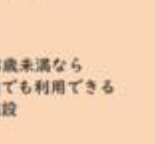
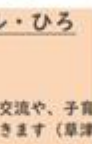
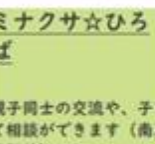
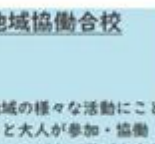
令和7年5月、市HPにこども・若者の居場所ポータルサイトを掲載。市公式LINEとも連携しました。
令和8年度は、既存公共施設を活用した、主に高校生年代から20代、30代の居場所交流事業を試行します。

こども・若者の居場所ポータルサイトの構築

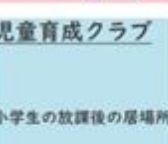
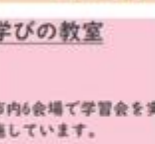
こども・若者の居場所づくりについて

草津市では、多様な体験活動や外遊びの機会に接することができる居場所を提供するとともに、個別のニーズにきめ細かく対応した居場所を提供することを目指しています。市民の皆様が必要な情報にアクセスできるように、このページではそうした居場所を一覧にしています。

体験活動・遊び

図書館 学-being 	学校体育施設開 放 	スポーツ教室 	児童館 18歳未満なら 誰でも利用できる 施設 
ココクル・ひろ ば 親子同士の交流や、子育 て相談ができます（草津 駅前） 	ミナクサ☆ひろ ば 親子同士の交流や、子育 て相談ができます（南草 津駅前） 	公園 公園で遊ぶ子供たち 	地域協働学校 地域の様々な活動にこ どもと大人が参加・協働 し、こどもの学びを支え ます 

保育・学校教育

幼稚園 	こども園 	保育所（園） 	小学校 中学校 高校等 
児童育成クラブ 小学生の放課後の居場所 	学びの教室 市内6会場で学習会を実 施しています。 		

（新規）既存公共施設を活用した居場所交流事業の実施

主に高校生や20代、30代30代を対象にした居場所交流事業を新たに試行します。

①（R8新規）先行事例、施設の視察、整理

- ・県内（長浜市itteki、甲賀市まるーむ、近江八幡市まほろばsince等）
- ・県外（京都ユースサービス協会、尼崎市ユース交流センター、京丹後市未来チャレンジセンター等）

②（R8新規）市内6高校へのアウトリーチ「居場所キャラバン」や中高生アンケート

- ・放課後や学校外の休日などで、若者の居場所やユース活動への関心についてアンケート調査
- ・居場所事業の案内やニーズの聞き取り、オープンミーティング等も実施

③（R8新規）キラリエ草津、UDCみなくさ、市民交流プラザにおける、若者の居場所運営

- ・ユースワーカーを配置し、安心して過ごせる居場所、学習や交流ができる環境づくり
- ・ユースワークを通じて、新しい出会いや、主体的な活動に向かう機会の創出
- ・9月末から3月中旬まで、各施設毎週1回を目安に開催

④（R8新規）ユースワーカーの養成に資する講座・ワークショップ等

- ・ユースワーク講座の実施（キラリエ草津2回、UDCまたはフェリエで2回）
- ・こども・若者や市民、各施設、市内外とのネットワーク形成のための合同企画1回
- ・居場所参加者の交流や地域・市政参画に向けた働きかけや実践

⑤（R8新規）SNS等情報発信および広報媒体制作

- ・Instagram等のSNSや広報媒体を制作し、利用可能日や活動内容の周知



令和7年度実施 Let'sまなびバ

（新規）こども・若者の意見表明・社会参画の新たな展開

滋賀県や草津市では、WEBサイト、SNSを使った意見表明や社会参画機会の提供を進めています。

①（R8新規）滋賀県 WEB上の意見聴取サイトを公開

- ・県内在住、在学の小中高高校生年代を対象としたオンラインプラットフォームが公開。今後、県内市町にもメリットがある形で、県市町連携を検討。

②（R8新規）草津市 若者クリエイターで創る草津発信部活動

- ・若者による草津市公認の情報発信コミュニティを創ることで、若い世代が自らのまちを発見し、その魅力を主体となって発信する機会を創出します。（若者クリエイター10名の公募、キックオフミーティング、WEBサイト構築、動画制作・SNS発信。）



ユースミットアップから、ユースカウンシルへ

尼崎市立ユース交流センターの3つの特徴

① 出会う

中高生が新たな自分の可能性に気づいたり、新たな興味関心を発見したり、様々な仲間や地域と交流するきっかけがあります。

② 実践する

たのしそうだな、おもしろそうだなと思うことをスタッフや他の仲間と一緒に挑戦していきます。

③ つなぐ

悩んでいることや、不安に思うことはいつでも相談に乗ります。専門のスタッフが自分に合った道筋と一緒に考えていきます。

成功の秘訣

① 効果的な伴走支援

若者が意見を自由に述べる場を整えるために、ユースワーカーによる円滑な議論進行や教育プログラムが導入され、伴走支援があります。

② 行政との連携体制

提案された意見が実際の政策に反映される仕組みがあります。若者自身が調査し、運営を模索するなど、若者を「お客さん」にせず、主体性が発揮されていることも特徴です。

事業の波及効果

① 若い世代の信頼醸成

若者が行政参加の場を実感することで、信頼を高め、世代間ギャップを緩和しています。

② 地域課題への提言

従来の行政視点では注目が薄かった新しい課題解決策が浮上しています。

③ 地域の活性化

地域への愛着やコミュニティ形成を促進し、結果として街の活力向上に貢献しています。また、自治体そのものの評価を上昇させます。

④ 未来のリーダー育成

事業を通じて育った若者が、地域のリーダーあるいは行政職員として次世代の都市運営を担う力を獲得しています。

尼崎市立ユース交流センター

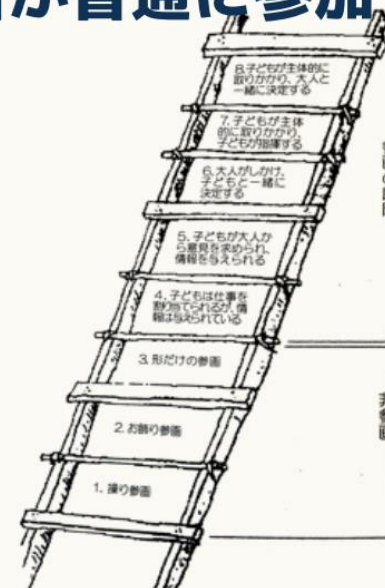
尼崎市では、ユース世代向けに整備された拠点施設（ユース交流センター）があり、ミートアップ（交流）からカウンシル（協議会、政策提案）に発展させています。

若者団体が、公園施設の一部を無償で借り受け、クラウドファンディングに挑戦し、自主的なスケートパークの運営が始まるなど、全国から注目が集まっています。



尼崎市ユースカウンシル事業Up to You!
第1期代表 原田伊織

若者がまちづくりに参加することではなく、 若者が普通に参加できるまちをつくりだすこと。



8	子ども主導の活動に大人も巻き込む
7	子ども主導の活動
6	大人主導で意思決定に子どもも参画
5	大人主導で子どもの意見提供ある参画
4	与えられた役割の内容を認識した上での参画
3	形式的参画
2	お飾り参画
1	操り参画

参加

非参加